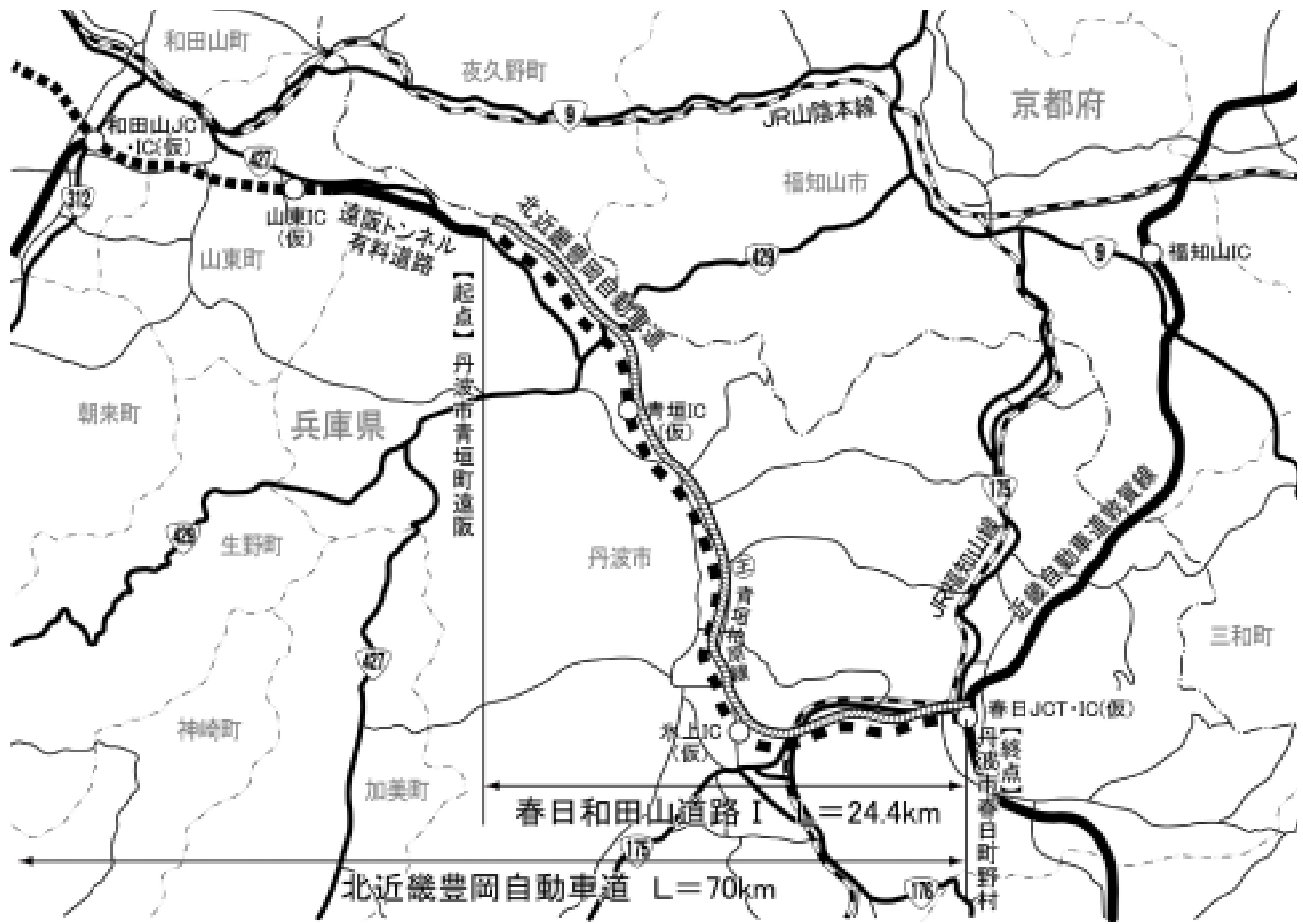


## 再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：鈴木 克宗

<b>事業名</b> ： 一般国道483号 <span style="margin-left: 20px;">かすがだやま 春日和田山道路</span>	<b>事業区分</b> ： 一般国道	<b>事業主体</b> ： 国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b> ： 自：兵庫県丹波市青垣町遠阪 至：兵庫県丹波市春日町野村	<b>延長</b> ： 24.4 km	
<b>事業概要</b> ： 春日和田山道路は、北近畿豊岡自動車道の一部として兵庫県丹波市青垣町から同市春日町に計画された自動車専用道路で、近畿自動車道敦賀線に接続し、阪神都市圏、播磨地域等との広域ネットワークを形成し、交通混雑の緩和・交通安全の確保、産業・経済活動の発展を支援すると共に生活利便性の向上と豊かな観光資源を生かした地域の活性化を図ることが目的である延長24.4kmの一般国道自動車専用道路です。		
H2年度事業化	-	H4年度用地着手
		H8年度工事着手
<b>全体事業費</b> ：約1,800億円   <b>事業進捗率</b> ：64%   <b>供用済延長</b> ：0.0km		
<b>計画交通量</b> ：19,200台/日		
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> ： (事業全体) 1.4  (残事業) 5.2	<b>総費用</b> ：(残事業)/ (事業全体) 514/1950億円 (事業費：413/1853億円) (維持管理費：101/101億円)
		<b>総便益</b> ：(残事業)/ (事業全体) 2,680/2,680億円 (走行時間短縮便益：2463/2463億円) (走行費用減少便益：140/140億円) (交通事故減少便益：75/75億円)
<b>基準年</b> ：平成16年		
<b>感度分析の結果</b> ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.7(交通量+10%)    B/C=5.7(交通量-10%) 事業費変動：B/C=4.8(事業費+10%)    B/C=5.7(事業費-10%)		
<b>事業の効果等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑なモビリティの確保</li> <li>・国土・地域ネットワークの構築</li> </ul>		
		他12項目に該当
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ： 春日和田山道路は、丹波・但馬地域と阪神都市圏との連結を強化するとともに、丹波・但馬地域の産業・経済の発展を支える基幹交通網を拡充する一路線と位置づけられており、丹波・但馬地域の3市20町から構成される北近畿豊岡自動車道建設促進期成同盟会（平成16年7月）や兵庫南東部国道連絡会（平成16年7月）、兵庫県（平成16年7月）等から早期整備の要望を受けている。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ： 人口は減少しているものの、自動車への依存度が高く保有台数は増加傾向にある。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> ： 既に用地取得も99%完了しており、平成17年4月に氷上ICから春日JCT・IC、遠阪トンネル有料道路から氷上ICについては平成18年の供用を目指して工事を進めている。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> ： 平成4年度から用地買収に着手したが、一部の地権者の同意が得られず用地交渉が難航し、平成16年12月に土地収用法に基づく裁決申請を行い、手続きを進めている。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> ： インターチェンジの構造の見直し等のコスト縮減に努めている。		
<b>対応方針</b>		事業継続
<b>対応方針決定の理由</b> ： 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		

事業概要図



凡	例
	供 用 中
	事 業 中
	再 評 価 箇 所

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。